

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 河内 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていたが、言語の知識理解以外は全国平均正答率を上回っていた。 ・言語の知識・理解に課題があり、朝学習や放課後ステップアップ等での継続した取組が必要である。
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	・学年別配当表に示されている漢字を正しく読む・書く問題の正答率が低い。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をわずかに下回り、どの観点もわずかに下回る。授業の終わりにまとめを書き、1時間の学習の成果を自覚できるようにしていくことが必要である。 ・書く力を問う問題は、ほぼ全国平均並である。
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、引用して書く問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題の無答率が高く、正答率も低い。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回り、どの領域も下回る。 ・整数の計算の正答率が高いが、小数や分数の計算や単位換算に課題があり、ICT機器等を活用したり、朝学習や放課後ステップアップ等で継続して取り組んだりし、基礎的事項の定着を図っていくことが必要である。
	よくできた問題	・底辺と面積の関係を理解する問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・商を分数で表したり、任意単位による測定について理解したりする問題の正答率が低い。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をわずかに下回り、数と計算の領域は全国平均をわずかに上回る。 ・図形の問題に課題があり、放課後ステップアップでの図形の問題の取組を継続していくことが必要である。
	よくできた問題	・割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	・平均を求める式を判断する問題の正答率が低い。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学級の友達との間で話し合う活動をよく行ったと答えている割合が増えていた。</li> <li>・家庭で計画を立てて勉強をすることについては、肯定的回答をする割合は高くなったが、否定的な回答の割合も低くない。計画的な学習を行えるような支援が必要である。</li> <li>・自己肯定感をもっている割合は高いが、増加はしていない。自己有用感を感じる取組を行っていくことが必要である。</li> <li>・テレビ・ゲーム・インターネット・スマートフォン等の利用時間が増えている。長時間利用の弊害や「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組の周知徹底を図っていくことが必要である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が説明しやすい環境や場の工夫を続け、児童が様々な説明体験を積み重ね、自信をもってできるように取組を継続していく。</li> <li>・自主学習ノートの活用、奨励を進めるとともに、放課後、タクシーを待つ間に宿題に取り組み、わからないところを先生に聞いて、苦手問題の克服に努める取組を進めていく。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招いた規範意識育成学習や学校・学級便りや保健便り等を通じて、情報端末等の利用も含めた健康について家庭への呼びかけ等を行い、保護者や家庭と連携した取組を進めていく。</li> </ul>
---